

第676回番組審議会報告

2023年3月7日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長、佐藤友美子副委員長、川瀬慈委員、鯨岡秀紀委員
栗栖義臣委員、津村記久子委員、西村久美子委員、増山実委員

■毎日放送出席者

虫明社長、宮田副社長、高山常務、酒井取締役、北野取締役、中野取締役、
田淵総合編成局長、柴田コンプライアンス局長、中西番組審議会事務局長

◆議事の概要

2022年度最終の審議会となるため、個別の番組の審議ではなく、
「MBSの番組・放送全般」について意見交換した。

【各委員の主な意見は次の通り】

- * 『よんチャンTV』はバラエティー的な安心感とニュースの興味深さが同居して面白。
- * 『よんチャンTV』のウクライナ関連の話題は河田さんが説明することによって、辛くなり過ぎずに見ていられる。専門家もある程度信頼されている方を呼んでいるので、ウクライナ侵攻に関する情報は『よんチャンTV』を見ている。
- * 「憤マン！」というコーナーはそれぞれの苦境や難儀をしている人が取り上げられていて、すごく興味深く見ている。いろいろ解決してほしい。
- * 「憤マン！」はとてもよく取材をしていると思うが、当事者と相手方のバランスがとても重要だ。
- * 『プレバト！！』は夏井さんがすごく面白いし、物言いが率直。全く梅沢さんに負けてないところがとてもいい。
- * 『情熱大陸』は新しい才能のある人を発掘していくために必要な番組だと思う。コンテンツの開発としてもすごく優れている。

- * 『魔法のレストラン』の「難波・天王寺 今昔グルメ物語」は最新の店と古くからの老舗を対比しながら見せていく内容の番組で、見ごたえがあった。画一的な番組作りにならないように配慮しながら、バラエティーに富んだ企画を練ってほしい。
- * 『住人十色』は単に家の紹介だけではなく、サブタイトルにある「家の数だけある家族のカタチ」のように、こういう意味があるからこういう家の作りになっていると背景を伝えているのですごく面白い。
- * 『かまいたちの知らんけど』の「大好きな先輩芸人登場で濱家ベロベロ&喜び大爆発！」は濱家さんの素顔がよくわかってファンにはすごく楽しい内容だったと思う。
- * ギャロップ・林さんが登場した時に、「ハゲ」を何度も連呼していたが、不快感を覚えた視聴者もいたのではないか。今の時代、容姿をネタに人を愚弄することはいじめにつながる可能性があるので、軽く考えてはいけないと思う。
- * コンプライアンスが厳しくなる中で、チャレンジングな企画や新しい取り組みをしている番組も多い。引き続きやっていただきたい。
- * あまりテレビが堅苦しくなり過ぎると残念なので、行き過ぎた表現はよくないがテレビ局のプロによるいい表現を探してほしいと思う。
- * 問題と感じる表現や行動も、芸人さんの素顔ということでそのまま流していないか常に気に留めておく必要がある。芸人さんと一緒になって作っているという思いが強過ぎて、出演者と制作者が一体化してしまう危うさがまだ残っているように感じる。
- * 『映像』のようなドキュメンタリーは、放送局にとっては本当に大事なものだと思う。調査報道をやらなくなったらジャーナリズムではなくなるので、引き続きやっていただきたい。
- * 『映像』は素晴らしいが、一方でそこだけがテレビ局の良心のショーウインドーみたいに囲い込まれているような印象だ。逆に言えば、それ以外の番組でこのような企画は出せないのかということ問い続けていかなければいけ

ない。

- *新しい番組を作るだけでなく、『発掘！アーカイブ探検隊』のように古い番組を何らかの形で活用していくことで、MBSのオリジナリティーが発揮できると思う。アーカイブの整備や、番組に登場された方たちへの慎重な配慮など、課題をクリアする過程も含めて番組の中で提示すれば面白いのではないか。
- *ここ数年、番組の中で企業や商品の情報を取り扱うケースが増えている。今後ますます広告と商品の識別には注視しなければならないと思うが、一方で情報そのものは有意義なので、どうバランスをとるか工夫していく必要がある。
- *タイムシフトがこれだけ普及していく時代に、編成はこれからどう変わっていくべきなのか考えなければならない。
- *88歳の母親が災害に関する番組を見ていた時に「より詳しい情報は、このQRコードで検索してください」というのが出て、世の中から切り捨てられたように感じたと話した。テレビのターゲット層が若返っている中で、高齢の人たちも見ているという視点は忘れてはいけないと思う。

以 上